

志津 まちづくり通信

第15号

発行：平成28年1月15日
志津まちづくり協議会
(志津市民センター内)
〒525-0041
草津市青地町561番地
TEL・FAX 077-562-0047
HP:<http://kusatsu.or.jp/machikyou/shizu/>

志津学区人口12,403人 男6,403人 女6,000人 (平成27年11月30日現在)

ふるさと志津 大きなわをつくらう



オープニングセレモニー
「志津まちづくり協議会の歌」全員合唱



大抽選会始めます！

何か当たるかな？



コルソーレ／紫苑



志津小児童のけん玉



さくら坂保育園児のソーラン節



みんなでがんばりました／志津保育園



ニュースポーツ体験



にぎわう会場風景



高穂中学校吹奏楽部

昨年11月15日(日) 志津小学校において、「ふるさと志津大きなわをつくらう」をテーマに、「志津ふれあい広場」を開催しました。

今年度は、地域の皆さんにゆっくりくつろいでいただこうと、観覧席や食事スペースを増やしました。また、今回はバザー会場を校舎玄関前から体育館に変更し、会場の一体感を持たせたことから大盛況に終わることができました。

今後も、地域の皆さんに喜んでいただける「志津ふれあい広場」を企画していきたいと思っておりますので、ご協力よろしく願います。
(教育・文化部長 鈴木 登)

(仮称) 地域まちづくりセンターの指定管理者制度を考える！

先進地視察研修

昨年11月27日(金)に、当協議会の理事19名が参加して、蒲生地区まちづくり協議会を視察研修しました。

まちづくりの取組みについては、町内会、行政、各種団体が協力して取り組んでおられ、安心のまちづくり・笑顔で暮らせるまちづくり・自然にやさしいまちづくりなど6つのテーマに基づき活動されていました。併せて、子どもから高齢者まで多くの方が自主的に集い、明日に向かって楽しいまちづくりをめざしておられる様子を聞くことができました。

また、草津市では、平成29年度より市民センターを(仮称)地域まちづくりセンターに改め、指定管理制度が導入される予定です。このことから、今回の研修目的である指定管理制度についても、現実的な説明をしていただき、大変参考となりました。



た。メリットは、柔軟な運営ができ、人と人のふれあいにより、地域の誰がどんな特技を持っておられるか等、人の情報が入るようになったとのこと。

デメリットでは、指定管理による剰余金が出ると言われたが現実にはない状況であり、指定管理の人件費が安く人材の確保が難しい。企画立案できる職員が必要であるなど課題も多いとのことでした。

また、市からの交付金が、指定管理を受けたことで減額されており、会費を徴収して運営をされるようになったとのこと。

今後は、この研修を活かし指定管理制度の導入を検討していきたいと思えます。

(町内会長委員会委員長 中井 守)



地域課題解決に向けて！

市長とまちづくりトークを開く 9月18日

志津まちづくり協議会の歌の斉唱で「市長とまちづくりトーク」が始まりました。山元会長の主催者挨拶に続いて、橋川市長から出席の理事のみなさんに対して、志津学区の人口急増や草津川上流部の防災等色々な課題が多い中、大変ご苦労いただいているとのことばを受けました。



トークの中では、民生・児童委員の代表から、緊急通報システムや要援護者申請に対し、協力員2名の対応が厳しいと要望されました。また、理事から市街化区域と調整区域が混在している状態で、草津市の縮図である志津学区のまちづくりの将来展望について提案され、市長はじめ関係部長より説明がありました。またたく間に時間が経過し、奥村副会長の締めで閉会となりました。

(町内会長委員会副委員長 竹村 勇)

自主防災研修会を開催します！

日時 平成28年1月23日(土)

午後1時30分から

場所 志津市民センター大会議室

内容 ・各町内会・自治会の自主防災組織の実態調査に沿った活動内容の発表。
・行方不明者の捜索についての事例発表と各町内会・自治会での今後の対応について。(市からの説明を聞きます。)

(防災・防犯・交通部長 青木 光)

ふれあいと親睦のつどい

敬老のつどいを終えて

昨年9月12日～26日の間で各町内会・自治会、施設のブロック毎に「敬老のつどい」を行いました。今年度も参加しやすい会場の催しに、昨年度よりも参加者が増えました。

ブロック毎にアトラクションや会食を取り入れ、身近な地域での開催は、会場が和やかな楽しい雰囲気に含まれ、新たな「ふれあいと親睦」の成果が得られました。

年度	対象者数	参加者数	参加率
H27	1,517名	555名	36.6%
H26	1,475名	536名	36.3%

(福祉部長 山口 茂)

理事会を開催しました！

平成27年10月3日(土)13:30～

【協議内容】

- (仮称)地域まちづくりセンター指定管理者管理要項(たたき台)について
- 「志津ふれあい区民運動会」の開催について
・実施内容の協議
- 先進地視察研修について
・蒲生地区まちづくり協議会へ視察研修指定管理・まちづくり協議会の運営等、研修内容の協議
- 会則および施行内規の一部改正について(案)
・理事会の議長について
・慶弔費規定について

平成27年11月6日(金)19:00～

- 平成27年度「志津ふれあい広場」(案)について
・事業の概要説明等について協議

(事務局)

地域のコミュニケーションづくり!



入場行進のスタート



交通ルールを守ろう



リング競争上手ですね



ピン球が風で落ちそう



慎重にこぼさないで



一致団結ヨイショ



背伸びしてがんばれ



消防団第二分団色水放水

わんぱく協働合校事業

志津の宝物を探しました

ミステリーハイキング

昨年9月26日(土)「志津の宝物ミステリーハイキング」を実施しました。小学4年生～6年生の子どもたちが、3つの班に分かれ、それぞれの班の色テープを頼りに、志津の宝物(建物や文化財、自然など)を探し、そのいわれや成り立ちを学習しながら、追跡ハイキングを楽しみました。



ハイキングには、地域の交通安全会、民生・児童委員、小学校PTA、子ども会などの組織・団体の皆さんに協力を得ながら、各目的地では地域の方々からお話をさせていただくなど志津の魅力に触れることができました。

手づくりパン大盛況でした!

「志津ふれあい広場」で体験

昨年11月15日(日)開催の、志津ふれあい広場では「ツイストパンづくり」の体験コーナーを担当しました。子どもスタッフの活躍の中、約250食のツイストパンに長蛇の列ができ、アツアツの「焼きたて手づくりパン」は大盛況で、笑顔あふれるコーナーとなりました。



(志津わんぱく協働合校企画委員会委員長 宮城詠子)

「志津ふれあい区民運動会」を終えて

冴え渡る秋晴れのもと、昨年10月18日(日)志津小学校グラウンドにおいて、第63回「志津ふれあい区民運動会」を開催しました。

久しく参加をして、志津学区も10チームと多くなり、大会の盛り上がりを感じましたが、各町内会・自治会とともに、出場者に苦勞されている様子も伺えました。

日ごろの運動不足を解消し、地域のコミュニケーションが図れた一日となりました。

(体育・健康部副部長 奥村 義忠)

体育・健康部事業

みんなで作るとおいしいね!

おやこの食育教室

親と子がともに忙しく、様々な“孤・個食”が進む中で、栄養バランスの大切さと料理をする楽しさを伝えるため、昨年10月10日(土)に、親子の食育教室を市民センターで行いました。



子どもたちは、慣れない手つきで野菜を切ったり、はち切れそうになるおにぎりやみそ汁作りに四苦八苦していました。試食のバイキングでは、「みんなで作るとおいしいね」「家のみそ汁の味付けが濃いことがわかった」などの声が聞かれ、終始なごやかな雰囲気の中で終わることができました。

(体育・健康部 我孫子 弘子)

第3回 ワークショップ開催しました

「志津まちづくり計画」見直します

当協議会では、昨年10月7日(水)に草津市赤十字奉仕団志津分団による今年度3回目のワークショップを開催しました。このワークショップは、「志津まちづくり計画」を見直すための貴重な意見となるものです。今回参加いただいたのはおよそ60歳以上の女性10名でした。

志津学区の「好きなこと」では、「こんないい風景があると言われてうれしい」「自然にふれあう機会がある」「二世帯家族が多く、子育てがみんなでできる」など。また、「気になること」は、「子ども達が外で遊ぶ姿を見ない」「住宅が多くなり、町内会の車の交通量が増え危険」など地域差はあるものの、それぞれの立場で意見がありました。

今年度、当協議会の役員、子ども会指導者連絡協議会、赤十字奉仕団による3回のワークショップを通しての意見の傾向は、「豊かな自然環境や風土に誇りをもっ

ている」「高齢化を背景とした問題に将来の不安を感じる人が拡がりつつある」

「住宅の開発で若い世代が増えることなどを好意的に受け止めているが、新旧住民のコミュニケーションの難しさを感じている」「身近な問題である防犯や防災についての意見が意外と少ない」「まちづくり協議会に対しての認知や理解を深めていく必要がある」などです。

現在、ワークショップでいただいた皆さんの声を活かしながら、平成25年度～27年度の「志津まちづくり計画」をもとに、平成28年度～32年度の5ヵ年計画の策定作業を行っているところです。

(事務局)



いつまでも元気に暮らすために……

介護予防・見守り・生活支援



医療福祉を考える会議 12月17日

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けながら、必要に応じて医療や介護等のサービスを受け、人生の最期を迎えることができるような仕組みづくりができないか、地域の諸団体、医療、介護、行政の関係者が集まり「医療福祉を考える会議」を開催しました。

10年後の2025年には、「団塊の世代(昭和22年～24年生まれ)」が75歳以上の高齢者となり、高齢化が急速に進んできます。このことから、志津学区でも地域の特性に応じて、自主性、自発性に基づいて「**ご当地ケア**」を作り上げていくことが重要であると思われます。そのため、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるシステムの構築の実現が必要ですが、そ

れら全てを一挙に解決することは困難と思われます。

そこで、やはり大切なのは、地域の人間関係とともに積極的な地域住

民参加のもとでの「**支え合いの地域づくり**」と考えます。

今後、この目標に向かって会議を進め、地域づくりに取り組んでいきたいと思ひます。

(民生委員・児童委員協議会会長 服部 孫司)



ふれあいサロン

志津社会福祉協議会 地域・ボランティア部会

郊外研修 10月21日

70歳以上のひとり暮らしの方と身体障害者更生会との郊外交流は、高島市にある「琵琶湖周航の歌資料館」を訪ねました。福祉バスの定員を大幅に超える53名の参加があり、展示資料や歌の誕生エピソードなどを聞いた後、みんなで声を合「琵琶湖周航の歌」を歌いました。説明を聞いた後



なので、歌声に思いがこもり、お互いの心が響き合い、とてもいい合唱になりました。

その後、琵琶湖の風に吹かれながら今津港の「歌碑」を見学しました。道の駅「あどがわ」ではゆっくりと昼食をいただき参加者同士が語らい、ふれあいができた楽しい秋の一日でした。

幼稚園児と交流 12月14日

志津幼稚園児123名と70歳以上のひとり暮らしの方など44名が参加し、ふれあいサロンを開催しました。共に歌遊びなどで交



流した後、健康推進員さん手づくりのカレー会食を楽しみました。世代を超えたひとときに笑顔があふれていました。(地域・ボランティア部会 寺尾 信一)